

国際大学GLOCOM公開コロキウム

『北欧の創造性教育を支える社会の枠組み ～創造性を育むデンマークの取組み～』

登壇者：安岡美佳（コペンハーゲン IT 大学アシスタントプロフェッサー/GLOCOM 客員研究員）

谷本明夢（東京工業大学宇宙物理学研究室卒、理学学士）

那須優一（東京大学文学部社会学専修 4 年生）

林万理（立命館アジア太平洋大学（APU）国際経営学部 4 年生）

日 時：2016 年 7 月 26 日（木）午後 3 時～午後 5 時

会 場：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

【概要】

デンマークはヨーロッパの小国でありながらも GDP が高く高付加価値を生む産業が発達している。その背景に、文化的要素・経済的要素のほか、教育的要素があると考えられる。

その教育は、子どもたちの自主性を重要視した仕組みとなっており、学校教育以外にも、図書館や学童といった施設や、ギャップイヤーや留学といった取組みなど、多様性によって支えられている。学校教育では、課題ベースラーニングという地域や企業と連携して課題に取り組む制度があり、子どもたちの自主性を育むのに非常に有益となっている。また、学校教育以外では、社会がその多様性を受け入れるというベースがあることや、リビングラボという持続可能性を保持する社会的実証実験の場などが紹介された。

一方、課題として基礎学力に欠けているなどの問題も指摘されたが、日本と互いにその能力を補い合う関係性として、その可能性が示唆された。

【ダイジェストレポート】

●デンマークの創造性教育を支える社会の枠組み（安岡）

デンマークは、ヨーロッパの北に位置する非常に小さな国で、およそ九州ほどの大きさに約570万人が住んでいる。1人当たりのGDPは58,930USドルであり、日本の38,293USドルと比較し遥かに超えている（2013年）。

その強さはどこから来るのか。社会学の視点では平等や民主主義など、その「文化・国民性」に由来するものといわれ、経済学の視点では福祉国家やフレキシキュリティの枠組みなど、「社会構造」が非常に整っていることに由来するといわれている。

今回はもう1つの視点として、広義の意味の「教育」がデンマークの強さに多大な影響を与えているという視点を提示する。「文化・国民性」と「社会構造」が高い親和性をもち、それらが『人をどのように育てるのか』ということに影響を与え「教育」として枠組みを整えることで、デンマークのイノベーションや創造性が喚起されている。

●課題ベースラーニングや実践ベースのプロジェクトラーニング（谷本）

デンマークの高等教育省が示す5つの教育方針の中に「Project work」があり、デンマーク全体としてその重要性が認識されている。Project workの定義は様々だが、本講演においては2つの定義が挙げられた。1つは「Project Based Learning：プロジェクトベースラーニング」と呼ばれ、プロジェクトを通じて学生が主体となって学ぶ方法で期間や実施体制も様々なものである。もう1つは「Problem Based Learning：課題ベースラーニング」と呼ばれるもので、特に現実問題にそったテーマを課題として扱うプロジェクトベースラーニングである。どちらも頭文字をとって「PBL」という。

初等教育においてもいくつか全員参加が義務付けられているPBL型授業も存在するが、今回はフレデリクサンドにて導入されている地域・企業・学校が連携した新しい取組み「Inno-elev」に注目する。これは、3、6、8gradeの生徒たちを対象とし、各企業や地域が持つ課題についてその解決へのアプローチを提案するものである。たとえばバス会社と共に「どうしたらより多くの人がバスを利用してくれるだろうか？」ということ子どもは4日間をかけて考え企業に提案する。

重要なのはこれが子どもたちの教育のためだけにあるのではなく、企業と社会にもプロフィットがある点である。「イノベーションの基礎となるものは、もはや個人の知識ではない」ということをPBLによって学びそれが創造性の鍵となっている。デンマークの次世代の子どもたちに求められる資質をCommunication、Collaboration、Critical Thinking、Creativeとし、通称「4Cs」として示している。

PBLには可能性以外にももちろん課題もあるが、自主性が育まれるという点で非常に有益な取組みであると考えられる。

●ギャップイヤーという創造性インキュベーションの仕組み（林）

ギャップイヤーとは、大学院前後の1年をめぐり正規教育から離れ、テーマをもってボランティア・インターン・国内外留学等で過ごす、イギリス発の社会慣行。デンマークではその取得率は年々増加傾向にあり、その社会的背景には教育制度によって多様性が保証されていることがあると考えられる。

ギャップイヤー取得者にヒアリングを行った結果、自信や精神的余裕を育んだり、異文化適応力やコミュニケーション力が身についたり、様々なポジティブな変化がみられることがヒアリングからわかった。また、自身の従来からの興味・関心分野にギャップイヤーで学んだことがプラスされることで、複合的な学びとなり、従来思いつかなかった選択を得ることができ、それが創造性につながるということが考察された。

現在、ギャップイヤーはその人によって動機や過ごし方は多様で体系化されていないものの、多様なチャンスがそこにはあり、自分らしくリラックスして過ごすことが重要であると考えられる。

●デンマークの留学事情（那須）

デンマークにおける留学の送出数および受入数ともに、人口10万人あたりで比較すると日本より非常に多い数となっている。これにはデンマークが国として主体的に留学を促進している背景があると考えられる。

高等教育・科学省では、2020年までに留学送出を全体の50%に増やすことを目標に掲げ（現在17%）、また優秀な若い人材を確保するため留学受入を積極的に推進している。具体的な支援策として、国が最大10万DKK（約170万円）の奨学金を貸与、事務手続きの簡略化などを実施している。全体で見ると受入支援のために300万DKK（約5,000万円）を拠出（2015年）、教育家の国際化のためにEUから1億2,000万DKK（約19億円）を獲得（2012年）している。

このような経済的支援だけでなく、環境整備も充実している。送出推進のために、学生による留学支援団体を作ったり、受入推進のために、良好な労働環境の提供、英語による教育の充実などを実施している。

●図書館やSFO（放課後教育）が支える創造性という仕組み（谷本）

創造性をかきたてる仕組みとして、学校だけでなく、図書館やSFO（学童）、美術館・博物館などの「多様性」がデンマークには存在する。

デンマークの図書館とは、国民にとって親しみやすくかつオープンな空間として利用されており、子どもたちにとってもフレンドリーな場となっている。例えば、地域の美術学校と連携してその作品を展示したり、クリエイターと連携して独自のショートフィルムを上映したりするなど、地域や学校と連携している。また、パソコンやゲームをするスペースや中庭を設け、家にいるようなくつろぎ感があるなど、子どもたちにとってもアクセスしやすい造りになっている。このように、小さいころから図書館に親しみを持ち、人の流れてくる地域のハブとして機能している。

SFO は基本的な仕組みは日本と同じであるが、デンマークでは非常に多様なワークショップを提供している。学校教育ではできない自由度の高いプログラムを子どもたちが主体的に参加する仕組みになっている。このことが子どもたちの創造性に大きく寄与していると考えられる。

●まとめとリビングラボ（安岡）

リビングラボとは、生活空間そのものや日常生活とつながっているシーンを、経済活動が行われている場として実証実験にしてみようというもの。長期的な視点を持ち持続可能性を保持しながら行うことができる。DOLL という取組みでは、未来の光の活用を検討するリビングラボで、光通信のハブの実証研究を、市と企業などのコンソーシアムによって推進されている。

現在、創造性を育むツールとしてワークショップが行われているが、その場限りで日常に取り込まれないといった課題がある。リビングラボによる長期的な視点にたったツールの使い方を検討することは、ワークショップの課題を打破する大きな可能性があると考えられる。我々は学童をイノベーションラボと捉え研究していく。

●パネルディスカッション

これからの社会で必要となる子どもの能力として、デンマークの「主体性・自主性」「民主主義（ダイアログ）」などが文化として自然と、かつ教育でもきちんと醸成されていることが大きいということを前提に、コミュニケーション能力、コラボレーション能力、クリティカルシンキング、クリエイティビティなどが挙げられるとされた。知識を蓄えるのではなく、自分が何をしたいかということから繰り返し訓練される環境が重要であると指摘された。また、それをサポートする多様性を受け入れ、創造的摩擦を生む社会環境も重要であると指摘された。

一方、デンマークの教育における課題として、創造性を育む環境や教育は進んでいるものの、計算や記憶など基礎学力に疑問を感じるシーンがあるという例が挙げられた。また、教える側をみても日本のような学習指導要領や試験制度がなく、教員側の能力も疑問を感じることもあるという。それとは対照的に日本は基礎学力が優れているので、デンマークとその能力を補いあう関係になれるのではないかという可能性も示唆された。